

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 29日は、高気圧が日本の東へ移動し、前線が東シナ海にのびる。
- 30日から31日にかけて、前線上に発生した低気圧が東・西日本付近を通過する。また、別の低気圧が中国東北区からオホーツク海へ進む。
- 4月1日から2日は、前線が日本の東から本州南岸付近にのび、前線上を低気圧が東進する。

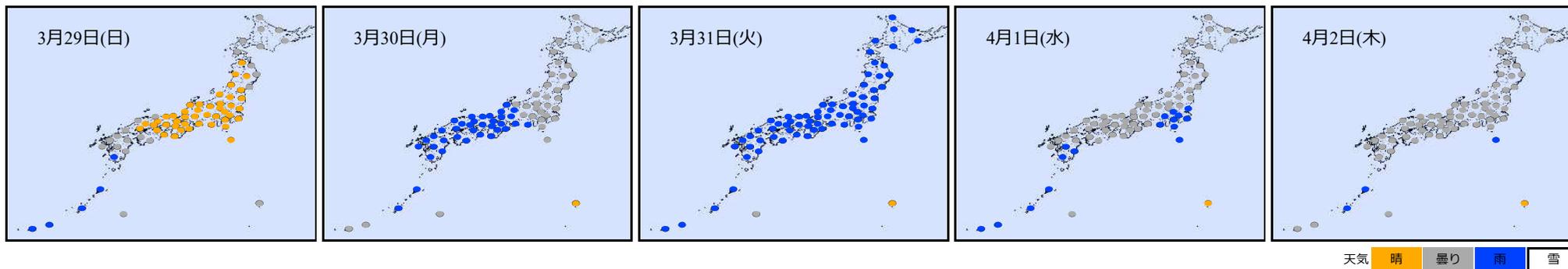
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

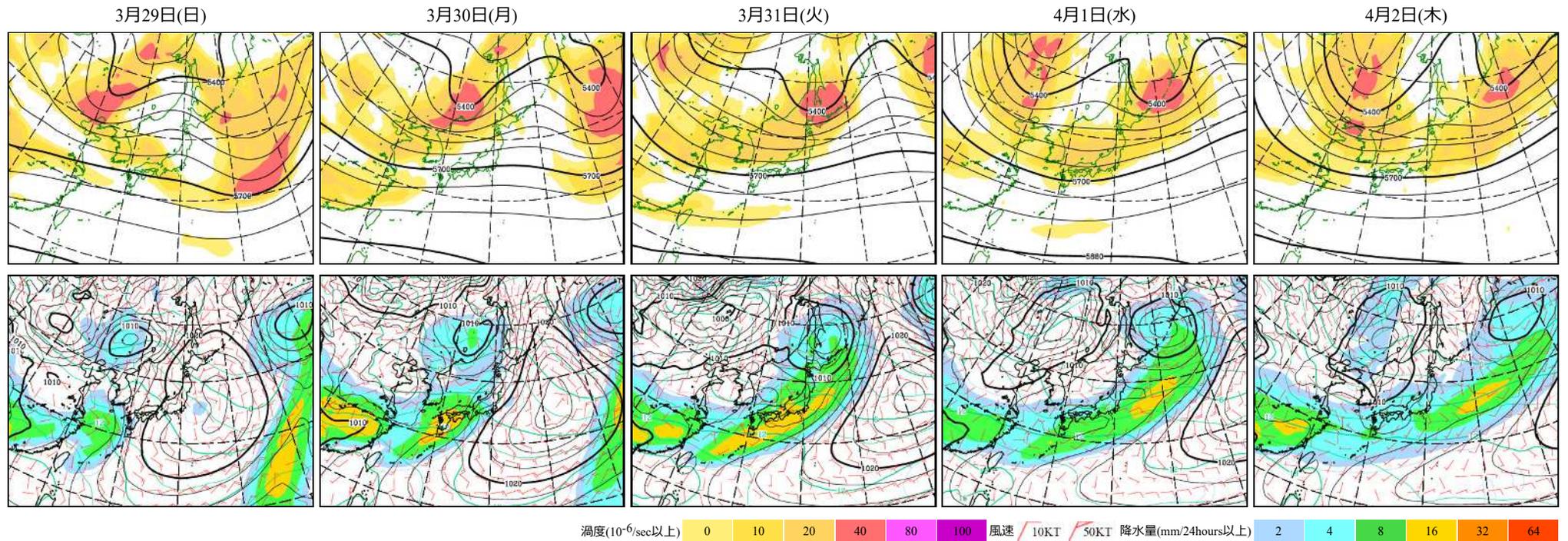
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

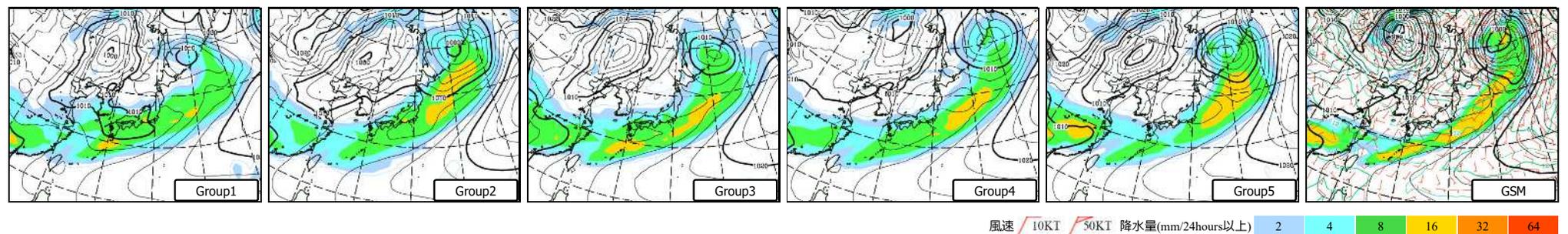


- 北日本は、曇りまたは晴れの日が多いが、31日は雨の降る所が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、29日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、大きな初期値変わりはない。29日に北日本に進むリッジが強くなった。地上の気圧配置は、29日に日本の東に移動する高気圧が強くなった。
- 31日までは、各モデルともにトラフ、リッジの東西の流れに大きな初期値変わりはないが、トラフの深さ等には初期値変わりが見られる。4月1日以降は、本州南岸付近を進むトラフの予想にモデル間の差があり、地上の低気圧の予想にもばらつきがある。
- 4月1日は、GSMは日本の南に前線がのびる予想だが、海外モデルは本州南岸に低気圧を予想している。ENSは、それぞれのモデルに近いメンバーを含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。